

第1回 羽生市立学校適正規模審議会（西・南中学校区）

会 議 録

日 時	令和5年2月24日（金） 午前10時（会議終了：午前12時）	
場 所	羽生市役所301会議室	
委員出欠	【出席】 川島委員、清水委員、石田委員、多田委員、遠藤委員、田邊委員、加藤委員、門間委員、福田委員、小林委員、尾城委員、岡村委員、金子委員、山崎委員、小久保委員、長谷川委員、須永委員、漆原委員、木村委員、檜原委員、小峰委員、長谷川委員、立花委員 【欠席】 立川委員	
事務局等	細村学校教育部長、須永教育総務課長、今成学校教育課長、米花生涯学習課長、教育総務課小林	
傍聴人	なし	
会議の内容	1 開会 2 委嘱状・任命書交付 3 教育長あいさつ 4 会長及び副会長の選出 5 議事 （1）羽生市立学校適正規模審議会への諮問について （2）学校の再編成の必要性について （3）審議会のスケジュール（案）、運営方法（案）について （4）その他 6 閉会	
会 議 録		
1 開 会	司 会 (教育総務課小林)	第1回羽生市立学校適正規模審議会（西・南中学校区）を開会する。
2 委嘱状・任命書交付	司 会 (教育総務課小林) 教育長	
		<委嘱状の交付>

<p>3 教育長あいさつ</p>	<p>教育長</p> <p>司 会 (教育総務課小林)</p>	<p><教育長あいさつ></p> <p>本審議会は、資料1の羽生市附属機関設置条例により定数が25人以内となっているが、資料3の3ページのとおり、本日、委嘱又は任命した委員は24人である。</p> <p>これは、資料1の羽生市立学校適正規模審議会規程第3条に基づき、公募の市民1名を小論文を審査して選任したが、選任後に御本人から辞退の申し出があったためである。</p> <p><事務局職員紹介></p> <p><教育長公務のため退席></p>
<p>4 会長及び副会長の選出</p>	<p>司 会 (教育総務課小林)</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p>	<p>会長及び副会長の選出である。羽生市立学校適正規模審議会規程第6条の規定により、会長及び副会長は委員の互選により定めることになっている。</p> <p>立候補あるいは委員で御推薦いただき、会長1名、副会長1名の選出をお願いしたい。</p> <p>前回の審議会は、途中から非公開となっていた。非公開となったことで、内容が分からないために、様々な反対があったと思う。我々は地域等から選ばれて参加しているため、地域に報告する義務がある。非公開になってしまうと、場合によりそれを報告することもできないので、考慮していただきたい。</p> <p>この場でいきなり会長を選ぶのは難しい。事務局一任ではどうか。</p> <p>前回の会議でも、会長の選出に当たっては様々な御意見があった。事務局としては皆様で選出してもらいたい。御了承いただきたい。</p>

	<p>委員</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>司 会 (教育総務課小林)</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p>	<p>提案であるが、このあと会議の中で各自意見を述べる場がある。議事を進めて、皆の意見を伺った後に選出するのはいかがか。</p> <p>承知した。会長、副会長の選出は後にして議事を進めさせていただく。進行は、教育総務係長が行う。</p> <p>本日の会議の目的についてである。本日の会議は、西・南中学校区の小学校の再編成に関する協議を始めるに当たり、その最初の会議として、顔合わせと、学校の再編成の必要性やこれまでの経緯、今後のスケジュール等について、委員全員で情報共有を図るためのものである。</p> <p>議事の（１）羽生市立学校適正規模審議会への諮問及び（２）学校の再編成の必要性について、事務局から説明を行う。</p> <p>（１）羽生市立学校適正規模審議会への諮問についてである。（資料２）</p> <p>羽生市教育委員会から本審議会に対し、「羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針」について諮問があった。諮問の内容は、「西・南中学校区の小学校の再編成に関する基本方針案を作成していただくことである。</p> <p>諮問の理由は裏面に記載のとおりであり、令和６年度末までを目途に、ゼロベースで再検討することとなっている西・南中学校区の小学校の再編成について、基本方針案を作成するものである。</p> <p>（２）学校の再編成の必要性についてである。（資料３）</p> <p>羽生市の出生数は年々減少しており、令和元年度以降 300 人を下回っている。地区別の出生数については、各地区において子どもの数が減っており、このままでは全小学校が 1 クラスあるいは一桁の子</p>
--	--	---

	<p>どものクラスになることが想定される。</p> <p>小学校の状況である。グラフは各小学校の児童数の推移・推計であり、ほとんどの学校で減少している。</p> <p>学校施設の状況についてである。大部分の施設が建設後 30 年以上経過しており、大規模改修などを行っているが、老朽化が進行している。</p> <p>なぜ学校の再編成が必要なのか。それは、羽生市の将来の子どもたちにとって、よりよい教育環境を整えるためである。</p> <p>義務教育の目的の一つは「個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」である。</p> <p>自立的に生きる基礎を培うためには、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、話し合い、友だちの考えと折り合いをつけ、合意形成を図るということを知り、経験する必要がある。そのためには、ある程度の人数が必要になる。ある程度の人数で、この学習過程を積み重ねることで、自立的に生きる基礎を培うことにつながる。</p> <p>こうした「よりよい教育環境」を整えるために、学校の再編成が必要であると考えている。</p> <p>児童生徒数は、今後の推計からも、更なる児童生徒数の減少が見込まれている。こうした中、本市の小規模校では、子どもたち一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導ができるという小規模校ならではのメリットを生かし、特色ある教育を展開してきた。しかし、児童生徒数の減少が進行すると、人間関係の固定化や学校行事の縮小等、次第にデメリットの方が大きくなることが懸念される。</p> <p>子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、お互いに切磋琢磨しながら、学力・学習意欲を高め、心と身体を健やかに成長させるためには、小・中学校はある程度の集団規模を確保することが必要である。</p> <p>また、子どもの数が少なくなるので、小中を一貫</p>
--	---

	<p>して子どもたちを育てていくことが必要である。</p> <p>学校施設の老朽化の進行も学校の再編成を計画するに至った理由である。今後は施設の安全と機能の維持に一層多額の費用がかかることが見込まれ、効率的に教育環境を整備していくことが必要である。</p> <p>市では、学校を含めた公共施設について、長寿命化や集約化・複合化といった再配置等に関する方向性を示すことで、財政負担の軽減・平準化とサービス水準の維持を両立させながら、公共施設の最適な配置を実現することを目的とした、羽生市公共施設個別施設計画を令和3年3月に策定した。</p> <p>今の公共施設を維持するためには、40年間で約620億円、年平均で約16億円という莫大な費用が必要とされている。このため、3つの基本原則に基づき、施設総量の適正化に取り組んでいる。</p> <p>次に学校の再編成による効果である。</p> <p>1点目は、クラス替えが可能な規模となることにより、児童生徒が切磋琢磨することで、社会性や規範意識を身につけることができることである。</p> <p>2点目は、小中一貫教育となることで、小中学校9年間の連続性を重視したカリキュラムにより、児童生徒の学習意欲の向上と中1ギャップの解消が図られ、確かな学力と豊かな心の育成につながることである。</p> <p>3点目は、学校施設を集約することで維持管理経費を削減し、限られた予算を再編成後の学校に投資し、より良い教育環境を確保することができることである。</p> <p>次に学校の再編成の経緯である。令和元年12月に、教育委員会から羽生市立学校適正規模審議会に学校再編成の基本方針案作成について諮問をした。同審議会での審議を経て令和2年10月に基本方針案(当初案)を作成し、令和7年度に東中学校区を、令和10年度に西・南中学校区を再編成するという案であった。</p>
--	--

	<p>司 会 (教育総務課小林)</p>	<p>この当初案に関し、令和3年4月に地区説明会、7月に保護者アンケートを実施したところ、西・南中学校区の再編成に関して、賛成、反対を含め様々な御意見をいただいた。このため、羽生市立学校適正規模審議会で再検討し、当初案を一部変更し、令和3年11月に答申をいただいた。一部変更した案は、西・南中学校区はゼロベースで再編成を検討し、令和6年度末を目途に再編成の時期を含めた基本方針を示すという計画である。東中学校区の再編成は当初案のとおり令和7年度に再編成する計画である。</p> <p>この一部変更案について、令和4年1月に地区説明会及びパブリック・コメントを実施したところ、三田ヶ谷地区から、再編成はやむを得ない、又は再編成に反対という要望や請願があった。</p> <p>市教育委員会としては、反対の意見も出てはいたが、東中学校区は児童数の減少が顕著であり、将来の子どもたちにとって、よりよい教育環境を整える必要があるため、井泉小・三田ヶ谷小・村君小の再編成は、審議会答申のとおり、令和7年4月の再編成を目指して進めることとした。そして、令和4年3月に、基本方針を決定した。この3校の再編成については、令和4年9月から具体的な協議が始まっている。</p> <p>そして、本日、西・南中学校区の小学校の再編成について、資料2のとおり、市教育委員会から本審議会に諮問があり、協議を開始することになったものである。</p> <p>教育委員会からの諮問と、学校の再編成の必要性について事務局から説明を行った。ここで、委員の皆様から、自己紹介を兼ねて、学校の再編成についての思いや考え等を発表していただきたい。</p> <p><各委員発表></p>
--	--------------------------	---

	委員	<p>校長という立場で学校運営していく上で感じているのは、小規模校のよさもあるが、子どもの人数が減少すると教職員の人数も変わってくる。また、人間関係も上手くいけばいいが、そうでない場合もある。そういうことを考えると、クラス替えが可能な規模がよいと思う。</p>
	委員	<p>子どもたちにとってどうかという点で議論をしていきたい。子どもの人数も減っており、教職員の人数も減っている。今までどおりでは難しいのではないかと思う。</p>
	委員	<p>このままでは、教育環境によくないと感じている。自分の子は羽生北小で色んな子と触れ成長している。私自身は三田ヶ谷小出身で6年間よかったが、規模の大きい学校と比較すると様々な違いが出ているのではと思う。</p>
	委員	<p>資料2で、地域や保護者の皆様から様々な御意見をいただいたため、検討を継続することとなったとある。様々な御意見はどのようなものがあったか、お知らせ願いたい。</p>
	委員	<p>新郷第一小は人数が少ないが、メリットがあると感じている。どの先生も子どもを把握している、運動会も皆が活躍できるなど、小規模校のよさはある。ただ、中学校に進学し、クラス替えなどがあると戸惑ってしまうなど心配な面もある。保護者の意見を聞いてみたところ、再編成するに当たって、交通の便が一番気になると意見があった。</p>
	委員	<p>令和3年度の地区説明会をきっかけに再編成に興味をもった。感想であるが、それなりの規模がないと、子どもたちに対するデメリットが大きくなるということが、私はあまり理解できていなかった。</p>

		<p>本当にそうなのかと思っていた。小学生の孫に聞いてみたところ、人数が少なすぎるから、行事とか寂しくなっている、2クラスくらいあったほうがよいのではと言っていた。中学生の孫も同様であった。子どもの人数が減ってきているので、例えば30年後に義務教育学校を作るのであれば、3つの学校ではなく、2つの学校でもいいのではないかと思う。</p> <p>義務教育学校を目指すのであれば、中学校を中心に考えるべきである。小学校の再編成は、中学校に進学する範囲を先に決めて、それからどこの小学校を残す、通学するというのを決めていかないと。前回決めた内容では無理があると考えている。</p> <p>小学校をどこに残すかよりも、どこの地区で本当に必要になるか。これから生まれてくる子どもたちに対して、どう責任をもって決めていくかである。</p> <p>全体で見れば再編成はとても良いと思う。地域の方に聞いたら、地域に学校があるのは灯台みたいでいいねと言っていた。</p> <p>小学校は義務教育である。義務教育の目的は基礎基本の完全習得である。全員が力をもつ必要がある。学ぶ力や発信する力のある子どもを育てることが必要であると考えている。それが40人学級でできるのか。息子は新郷第二小で13人学級であった。一人一人が確かな力を身につけることが必要である。現在は、学校に不適應な児童が増えている。今の規模で増えていることはどういうことか。対応の難しい問題があるのではないかと思う。基礎基本を少人数で力をつけさせてほしい。そうすれば話し合いができる。人数が増えても対応できると思う。現代は、多様性が必要である。多様性に対応できる教育が必要ではないか考える。</p>
	委員	
	委員	
	委員	

	委員	<p>小規模のメリットは大きいと感じていて、デメリットについては、あまり感じていなかった。地域としては、複式学級となるのであれば、統合も考えられるが、今の状態では何も問題ないとの意見があった。統合によって、通学が非常に遠距離になり、歩いて行ける距離の学校があるのに、バスに乗って遠方の学校に行かなければならないとすれば、それは子どもたちにとって果たしていい環境なのかとの話があった。そして、学校は地域のシンボルであり防災拠点である。小規模の小学校を残してほしいという意見が多数あった。</p>
	委員	<p>3点考えている。1点目は、今の子どもたちの現状ということと、その子どもたちが大きくなったときの羽生市の子どもたちの未来を思って考えていただきたい。2点目は、子どもたちが減少する中での教育環境を維持又は向上させていくための取組であるということ。3点目は、保護者や地域の皆さんの不安を解消するために、この会議を通じて少しでも将来を見通せるような道筋を示していきたい。</p>
	委員	<p>東町は羽生南小、羽生北小、井泉小に通学している地域である。井泉小は10人くらいで少ないが、羽生北小と羽生南小が多い。子どもの居場所として子ども会活動があるが、なかなか活動できていない状況である。非常に難しいところである。私たちが管理している公園もあるが、子どもが出てこない。もし再編成するのであれば、うまくいくのかなと考えている。</p>
	委員	<p>栄町地区も羽生北小、羽生南小に通学が分かれている。できればこの会議を通して、解消したいと考えている。現在は、自治会の再編成も求められている。新郷地区は1区から14区まで長い地区であるので、一つにまとめるのが大変。その中で学校が変わるのであれば、新郷を北と南と分けて、自治会も</p>

		<p>分ける。小中学校を一緒にし、中学校の再編成まで考えているのであれば、新郷第一、新郷第二、岩瀬の学校区で新しい学校を作ったらどうか。今の古い学校はもう40、50年も経っている。その学校を一緒にして、あと何年使えるのか。それであれば、新しい設備の整った学校で小中一貫校を目指し、新しい施設を作る。そして他の施設を廃止するのがよいのではと考えている。</p> <p>委員</p> <p>前回の審議会から参加している。小規模校のメリット、デメリット様々あるが、そこに目を向けすぎず、全体として、子どもたちにとってより良い環境を皆で建設的に議論していきたい。PTAの立場からだと、家庭数が減少しており活動が縮小している。保護者として何ができるか、手厚く子どもに手を差し伸べられるPTA組織を作るためにも、ある程度の規模が必要と考えている。</p> <p>委員</p> <p>前回の再編成の川俣小学校の説明会の時に参加している。今の川俣小は約100人くらい、我々の時代は300人くらいいた。ただそれでも、中学校に行ったときには、小さいところから大きいところへの戸惑いがあった。自治会の立場からだと、子どもたちの下校時など安全を見守る学校応援団活動をしている。今は、子どもが少ないので、いくら待っても来ない。今日は親が送っていったとか、学童に行ったなどが多い。どうしても小さい学校はある程度大きい学校に統合せざるを得ないと思っている。自分の地域を中心に見てしまいがちだが、この立場でいる以上、全体を見ながらやっていきたい。</p> <p>委員</p> <p>資料を見ると、他の小学校が減っているなか、川俣小学校が増えており、私も驚いている。ただ冷静な目で見れば、羽生北小との統合はしかたないと思う。今後も増えるのであれば、どうなのかと思った。</p>
--	--	---

	委員	<p>子どもが減っているのは、市のまちづくりとも連動している。須影、岩瀬、手子林は市の進めているまちづくりの方向どおりに、ある程度、維持できているし増えている。その結果、学校も人数が確保されているところがある。羽生市の人口を増やしていくという基本的な計画が昭和40年代にあり、市街地を中心として設定し、新郷地区も当時設定している。ただ、今の新郷の方には申し訳ないが、新郷地区は都市計画事業が進まなかったことで、その結果、人口が減ってしまった。それでも新郷は、第一小と第二小とあり両方なくなるのはかわいそうだと感じている。</p> <p>当時は、あまり再編成について意識しておらず、前回の再編成のアンケートを学校からもらって、その時に初めて考えた。ホームページで説明会の内容を見たところ、自分も地域の意見と同じ不安をもった。また、知り合いの保護者に聞いたところ、統合についてのメリット、デメリットを知らなかった。説明会の参加人数も少なかったし、その後の説明も特段なかったと思う。自分はこの会議を通して、再編成について内容が分かるが、他の保護者は、メリット、デメリットが正直分からないと感じている。PTAを通して学校とのパイプになれるよう意見を出していきたい。</p>
	委員	<p>岩瀬地区は、近年商業施設や住宅が増え、人口も増加している。特に中岩瀬を中心に年々増加している。岩瀬小学校は慢性的に教職員が足りないと聞いている。不足により教頭先生が1年1組の担任をしている。将来の羽生市の児童生徒の減少、施設の老朽化、教職員の不足など、学校再編成は避けては通れない道と思っている。</p>
	委員	<p>学校運営委員会を昨日実施し、先生が足りなくて困っていると聞いた。また、予算の不足や施設の老</p>

	委員	<p>朽化なども困っていると聞いている。皆で再編成について考え、子どもたちにとってよりよい環境を作っていきたい。</p> <p>学校の再編成がなぜ伸びてしまったのか、私としては疑問に感じているところである。岩瀬小は市内の学校と比較しても多い。1クラス40人近い人数で先生が1人と1クラス10人で先生が1人では、教育的に平等なのかと感じている。岩瀬小は大きい地域である。遠くの地域は、車で来る児童もいる。再編成となれば、より遠い地域から来る児童もいるので、スクールバスなど交通手段を考えて、安全に登下校できるようにしていきたい。校舎の耐用年数では、県ではRC造は約80年となっている。羽生市の学校は軒並み築年数が40年、50年である。再編成を考えると残り25～30年であり、その辺りを踏まえて考えたい。また、改修費用もすごくかかってくる。再編成して改修費用が浮けば、その浮いた分を、例えば給食費無償化など他の教育に当てられれば、優しい市のあり方を考えられるのではと思っている。</p> <p>児童生徒数の減少や施設の老朽化など課題もあり、再編成もなかなか進んでいない。自治会から選出されているので、次につなげていきたい。</p> <p>子どもたちにとって一番よい環境を整えることが、大事だと考えている。これからの子どもたち、一人一人がよい環境で学べるのが、皆の望んでいることだと思う。須影地区は再編成にあまり関心がないようであるが、保護者や地域の方に伝えていければいいなと考えている。</p> <p>皆さん、地域に対する想いが強いなと感じた。特に年配の方は、そこに住んで卒業して、今も過ごしているので、想いが全然違うなと感じている。現代</p>
	委員	
	委員	
	委員	

	<p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>委員</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p>	<p>は、環境が変わってきていて、変化に対応できたところが残っている。今の子どもたちはそういった変化の多い社会に出ていくと思うので、そういった中でもどうやって環境に対応できる子どもたちにしていくか議論をしていきたい。</p> <p>それでは、委員の皆様の御意見を伺った上で、改めて立候補あるいは委員で御推薦いただき、会長1名、副会長1名の選出をお願いしたい。</p> <p>新郷第一小学校長である川島校長を会長に推薦したいが、いかがであるか。</p> <p><異議なし></p> <p>川島委員に会長をお引き受けいただくことよろしいか。</p> <p><川島委員了承></p> <p>続いて、副会長であるが、立候補あるいは御推薦をお願いしたい。</p> <p>会長が西中ブロックであるので、南中ブロックから選出するのがよいのではないか。</p> <p>女性でもあり、前回の適正規模審議会にも委員として参加していた、福田委員はいかがか。</p> <p><異議なし></p> <p>福田委員に副会長をお引き受けいただくことよろしいか。</p> <p><福田委員了承></p>
--	---	---

	<p>司 会 (教育総務課小林)</p>	<p>それでは、会長は川島委員、副会長は福田委員に決定をした。なお、本日の議事の進行は、このまま事務局で進行させていただく。</p>
	<p>司 会 (教育総務課小林)</p>	<p>次に議事の（３）審議会のスケジュール（案）、運営方法（案）について、事務局から説明をする。</p>
	<p>事務局 (教育総務課長)</p>	<p>（３）審議会のスケジュール（案）、審議会の運営方法（案）についてである。（資料３）</p> <p>本年度の会議は本日のみである。令和５年度と令和６年度にそれぞれ５回程度、計１０回程度の会議を開き、基本方針案を作成する。また、アンケート等で保護者や地域の皆さんの意見を伺う予定である。そして、委員の任期である令和７年２月７日までに、基本方針案を教育委員会に答申したいと考えている。</p> <p>次に審議会の運営方法についてである。</p> <p>会議は原則公開である。会議録を作成し、会議の結果をホームページにて原則公開する。</p> <p>意見聴取については、協議を進めていく段階で、保護者や地域の皆さんにアンケートなどで意見を伺うことになると考えている。</p> <p>広報としては、ホームページでの公開のほか、広報はにゅうにも進捗状況を掲載する。</p> <p>なお、ホームページ等に会議の写真を掲載する場合がありますので、あらかじめ御了承いただきたい。</p>
	<p>司 会 (教育総務課小林)</p> <p>委員</p>	<p>事務局の説明に対し、意見・質問を求めた。</p> <p>前回の審議会に参加していた委員に伺いたい。おおむね２か月に１回程度の会議となるが、最初の方は月に１回程度の開催にしたほうがいいのか</p>

	<p>委員</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p> <p>司 会 (教育総務課小林)</p> <p>事務局 (教育総務課長)</p>	<p>ないか。</p> <p>ゼロベースで作るとなると大変なので、資料や方向性などある程度、事務局が作成したベースがあったほうがよいと思う。2か月に1回程度でよいかと思う。</p> <p>(4) その他についてである。</p> <p>次の会議については、5月30日火曜日、午前10時から、市民プラザ大会議室で行う。</p> <p>なお、委員は各選出団体の役職である必要はないので、現在の役職が交代となっても、引き続き本審議会委員をお勤めいただき差し支えない。</p> <p>選出団体の役職の交代等により委員を交代する場合は、必ず後任の方を選出いただき、事務局宛て御連絡をお願いしたい。また、男女共同参画の観点から可能な限り女性の方の選出をお願いしたい。</p> <p>最後に西・南中学校区の小学校の再編成について、羽生市及び羽生市教育委員会は、委員の皆様、そして保護者、地域の皆様とともに、「継往開来」の精神で、取り組んでいきたいと考えている。再編成に対し、様々な御意見があると思うが、全ては将来の子どもたちのためである。委員の皆様と前向きな議論をして、新たな基本方針案を作りたいと考えている。皆様の御理解と御協力をお願いしたい。</p> <p>事務局の説明に対し、意見・質問を求めた。</p> <p><特になし></p> <p>次回の会議から、再編成に関する具体的な協議に入りたい。</p> <p>委員の皆様には、資料3の20ページ、「学校の再編成の目的と基本的な考え方」を踏まえた上で、再</p>
--	--	--

	<p>司 会 (教育総務課小林)</p>	<p>編成の案を考えていただき、次回の会議で発表していただきたい。</p> <p>案を考えるのは、個人でも、小学校区ごとのグループでも構わない。保護者や地域の皆様の意見も聴いていただきたいと思う。委員の皆様から出された案を基に、グループ討議などで意見交換をしていきたいと考えている。</p> <p>これで、本日の議事は全て終了した。</p> <p>羽生市立学校適正規模審議会（西・南中学校区）を閉会</p>
<p>【配付資料】</p> <p>資料 1 羽生市立学校適正規模審議会規程</p> <p>資料 2 諮問書</p> <p>資料 3 令和 4 年度羽生市立学校適正規模審議会（西・南中学校区）</p> <p>資料 4 羽生市公共施設個別施設計画（抜粋）</p> <p>資料 5 答申書（令和 3 年 1 1 月 8 日）</p> <p>資料 6 羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針</p>		